

## 連載

## 星座の名前と歴史 (1)

## ～ペガサス座とペガサス座～

松村雅文 (香川大学)、成田 直 (川西市立北陵小学校)、福江 純 (大阪教育大学)  
 渡部義弥 (大阪市立科学館)、株本訓久 (武庫川女子大学)、半田利弘 (鹿児島大学)  
 服部完治 (名古屋市科学館)

## 1. はじめに

多少なりとも天文の教育や普及に携わっていると、普段はあまり意識することなく星座の名前を使います。しかし、注意してみると、時には普段使っている星座名と若干異なって発音されたり、表記されたりすることもあるようです。本稿の著者の一人 (成田 直) が、“ペガサス座”について、その表記や発音を疑問に思い、次のように本会のメーリングリスト“tenkyo”で問うてみました。

## 件名：ペガサス座とペガサス座

兵庫県川西市 (@近畿支部) の成田と申します。いつもは ROM ばかりですみません。

今日は大阪教育大学附属池田小学校で公開研修会があり、その中に四年生の天文分野を扱った授業もあるとのこととで参会していました。その中で、授業者がペガサス座をペガサス座と表記していてとても違和感を覚えたのですが、他の参会者は特に気にしていない様子でした。指摘しようと思ったのですが、根拠がはっきりしないため発言できませんでした。

とても初歩的な質問なのかもしれませんが、ペガサス座をペガサス座と表記しない明確な根拠ってあるのでしょうか？ 単なる慣例なのか、どこかで定義されているのか、ご教示いただけると幸いです。よろしくお願ひします。 ([tenkyo:06559]、2016年2月29日)

このメールには5日以内に30通以上の返信があり (表1)、関心の強さがうかがえました。

表1 Tenkyo-ml における関連メール  
 (2016年2月末～3月初め)

月日	tenkyo#	名前	備考
2/27	06559	成田直	問題提起
2/27	06560	渡部義弥	用語集、理科年表
2/28	06561	甲田昌樹	用語用字
2/28	06562	菊川真以	ヘルクレス座
2/28	06563	飯塚高輝	図鑑等の扱い
2/28	06564	佐藤 健	ペガソス座
2/28	06565	中嶋 久	国による違い
2/28	06566	服部完治	1994年用語集
2/28	06567	伊東昌市	原語に近い発音
2/28	06568	大越 治	学術用語
2/29	06569	半田利弘	用語の多様性
2/29	06570	寺菌淳也	なるべく統一
2/29	06571	松村雅文	会誌で掲載提案
2/29	06572	山内銘宮子	昭和19年の書籍
2/29	06573	大越 治	教科書検定基準
2/29	06574	半田利弘	06573へ返信
3/01	06576	福江 純	学名はラテン語読み
3/01	06577	伊東昌市	コップ座?
3/01	06578	山内銘宮子	表記の統一時期?
3/01	06579	株本訓久	1910, 1922年の文献
3/01	06581	半田利弘	「羅和辞典」参照
3/01	06582	半田利弘	慣用表現の訂正
3/01	06585	服部完治	1922年IAU総会等
3/01	06586	石井 馨	テーブル山座

(表1 続き)

3/01	06587	茨木孝雄	IAU Com.3 Rep.等
3/01	06589	茨木孝雄	06587の続き
3/02	06590	服部完治	各種資料
3/03	06593	半田利弘	西欧系言語の 翻訳
3/03	06594	石井 馨	テーブル山座 (続き)
3/04	06596	半田利弘	06594へ返信
3/05	06597	石井 馨	06596へ返信
3/05	06605	半田利弘	06597へ返信

第2コラムは、メールの件名の番号を示します。  
第4コラムは、主な内容やキーワード等。

表1に示した tenkyo-ml でのメールの後にも3月の終わりころまで、やや専門的な内容を含む関連メール(約20本)が著者ら(7名)の間で交わされました。つまり、2016年3月頃に合計で約50本に及ぶメールによって情報交換がなされたわけです。その内容は単に表記の正誤にとどまらず多岐に渡っています。折角の機会なので、まとめることが可能な内容は本誌に連載してはどうだろうかと著者のうちの何人か(福江、半田、松村等)から提案され、本稿の作成に至っています。すべての内容を網羅することは難しいですが、何回かに分けて連載して紹介したいと思います。なお、メールで指摘された事柄の多様さを考えると、重要な内容であっても、文脈上、どうしても紹介できない場合もあると思います。そのような場合は、ぜひ、内容を記事として本誌にご投稿ください。

今回は、一連のメールの発端になったペガサス座を中心に考えてみましょう。

## 2. メール情報の概略

### 2.1 正しいのはペガサス座?

まず、社会教育(プラネタリウムや公開天

文台、科学館)の現場では、星座の名前について、学術用語集[1]や理科年表等が参照されていること(#06560、#06561)<sup>1</sup>、また図鑑等で「ペガサス座」と記述されていること(#06563)が指摘されました。

また、学校教育に関しても、教科書検定基準(平成21年、26年)では、“各教科に対応した学術用語集、…(略)…、によること”と記されているそうです(#06573)[2]。

このように、ペガサス座が正しいとされているものの、ペガサス座とも表現されたり発音されたりする背景には、神話に出てくる天馬はペガサスと書かれることが多いこととも関連ありそうです(#06561)。過去には、ペガサス座は、ペガソス座という表記もあったそうです(#06564)。今でも、Wikipediaでは、ギリシャ・ローマ神話に出てくる天馬を、“ペーガソス”と記しています[3]。

似たような例として、ヘルクレス座/ヘラクレス座があります(#06562)。関連した問題として、判りにくい星座名があります。コップ座ではなくカップ座がよいのではないか(#06577)とか、テーブル山座(#06586、#06594)の書き方は問題ないのか、等の指摘もありました。

そもそも、なぜ似ているけれど異なった表記があるのかについては、どこの国の言葉を元にするかで違ってくと指摘されています(#06565)。ペガサスは英語の発音と言われます(#06563、#06581)。そうならば、どう表記/発音しようが、必ずしも正解はないはずです。しかし、学名はラテン語読みを使うこととなっており(#06576)、このことを考えると、選ぶならばラテン語読みを選ぶのが適当と言えそうです。実際にラテン語の辞典を見ると、学術用語集等に載っているとおり、ペガサス座はやはり“ペガサス”と発音する

<sup>1</sup> これらの番号は、表1の第2コラムの番号を示します。以下も同様。

ことが判るそうです (#06581) [4]。このように見てみると、学術用語集に示されているように、“ペガサス座”と表記・発音するのが適当と考えられます。

## 2.2 ペガサス座と言っては×なのか？

それでは、ペガサス座／ペガサス座について、教育現場等ではどのように扱えば良いのでしょうか？ これに対して明確な答えが出されたわけではありませんが、メーリングリストでの意見を概観すると、ある程度の方向性が見えてきます。

一つの考え方は、一応、正しいとされる表記・発音があるのですから、できるだけ統一されるべきというものです。発達段階によるでしょうが、子どもたちは、最初に聞いたのが絶対に正しく、その後聞いたものは全て間違いだと信じ込む傾向が強いこと (#06564) も考慮するならば、子どもたちに混乱を与えないよう、統一するほうが良さそうです。また、最近は検索によって多くの情報を得られるので、表記の揺れは少ないほうが良い (#06570) という指摘もありました。

一方、広く多様性を認め、決めつけないほうがよいという考え方もありました。色々な表記があることを認め、その背景も含めて理解するほうが、一つの表現を教えるよりも意味がある (#06567) と考え方です。ただ、この意見に対しては、教えるのに手間がかかる、試験がしにくい（正解が一つではないから）といった反論が聞こえてきそうです。ML では、直接そのような意見はありませんでしたが、従来から言われている意見として、#06567 で紹介されていました。

色々なメールを見て、筆者たちは、状況（立場）によって言葉を選択することが賢明であろうと考えました。具体的には、以下のようなことです。

(1) 教育者自身の表記や発言においては、

特別な理由がない限り、できるだけ正しいとされているもの（本稿の話題ではペガサス座）を用いるのが良いのではないのでしょうか。その上で、ギリシャ神話の天馬はペガサスと使い分けるのが適切と思われます (#06576)。実際、このような使い分けは科学館等で行われているようです (#06564, #06566)。

(2) 子どもたちの表記や発音においては、出来るだけ多様性を認めるのが適当でしょう。子どもたち自身の認識に関わらず、星座名の表記や発音にはそれぞれ背景があり、それぞれが正当なものと考えられることができます。このため、試験に出題するような題材では無いと考えるべきでしょう（本稿末尾の付録も参照）。

本稿では、著者の一人（成田 直）の疑問に対して展開されたメールの情報を基に、ペガサス座の表記と発音について考えてみました。皆さんはどのようにお考えでしょうか。今後の本連載では、星座の名前の由来、1930年頃に星座名が決まった状況、また日本ではどのように受け入れてきたのか等について、報告していきたいと考えています。

## 文献等

- [1] 文部省・日本天文学会 (1994) 『学術用語集 天文学編 (増補版)』、丸善
- [2] 天文も含め、各分野の学術用語集がありますが、2003年以降は出版されておらず、教科書がそれに依拠していることに問題があるとの指摘がありました (#06069)。
- [3] Wikipedia のペーガソスの項  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/ペーガソス>
- [4] ラテン語で、ペガサスを Pegasus と綴ることもあり、発音はペガソスになるそうです (#06581)。そうならば、#06564 の指摘も説明されます。

【付録】絶対作ってはいけない問題

次のようなナンセンスな問題を作って、子どもたちにテストとして出してはいけません。

問題 次の文の空欄に入る最も適当な語句の組み合わせを選択肢（ア）～（エ）のうちから一つ選べ。

翼をもつ馬は  という名前であったが、天球で  座となった。

- |     |                                |                                |
|-----|--------------------------------|--------------------------------|
|     | <input type="text" value="1"/> | <input type="text" value="2"/> |
| (ア) | ペガサス                           | ペガサス                           |
| (イ) | ペガサス                           | ペガスス                           |
| (ウ) | ペガスス                           | ペガサス                           |
| (エ) | ペガスス                           | ペガスス                           |

正解（イ）



松村雅文

- 成田 直
- 福江 純
- 渡部義弥
- 株本訓久
- 半田利弘
- 服部完治

\* \* \* \* \*